

岩手の生協の今をお伝えする

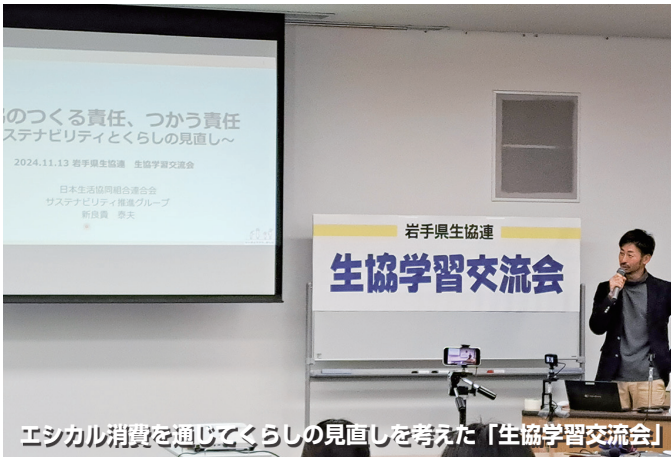
岩手の生協

VOL.66 2025.1

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / 📠019-684-2227



エシカル消費を通じてくらしの見直しを考えた「生協学習交流会」



全県での福祉灯油実施を県に請願し採択



日本も核禁条約に署名・批准を！ 岩手の会3周年集会



学校給食費無償化を求め県に署名を持って要請

特集

生協学習交流会報告

生協のつくる責任・つかう責任～サステナビリティとくらしの見直し～

なくそう核兵器！消費者の知る・選べる権利を守ろう！

～核兵器廃絶、ゲノム編集食品表示を求める取り組み～

■会員生協トピックス

- ・遠野市役所生協
- ・岩手労済生協

■岩手県生協連トピックス

- ・福祉灯油を県に請願。今年度も実施へ
- ・くらしの問題を考え合った「岩手県消費者大会」
- ・STOP! 女川原発再稼働緊急アクションを実施
- ・学校給食費無償化を請願。県と盛岡市で採択

新年のご挨拶

岩手県生活協同組合連合会 会長理事 阿部慎一



旧年中は、格別のご厚情を賜り、心から御礼申し上げます。

世界情勢や異常気象、国内の物価高騰による影響で県民のくらしは一段と厳しさを増しています。県内生協は「誰もが健康で安心して暮らせる地域づくり」「貧困格差の是正」「平和と人権」「福祉の充実」「持続可能な地球環境の保全」「安全・安全な食」などを求め、諸団体とも力を合わせ取り組んでまいりました。

生活苦を抱える人が増加する中、子ども食堂への支援やフードドライブ、フードバンク、支援団体との連携による共助の仕組みづくりを広げてまいりましたが、助け合いだけでは限界があります。昨年からは学校給食の無償化を求める運動にも取り組んでいます。人口減少や少子高齢化を理由に、社会保障が削減されることがないよう、国による公的支援の充実も必要です。

平和に関しては、防衛予算を倍増し産業の軍事化も推奨されようとしています。軍拡優先は、自由や権利の制限、市民生活の圧迫に

つながります。平和憲法9条を持つ日本は、外交手段を尽くし戦後80年続く平和国家としての信頼を維持する道を進むべきです。世界に大きな影響を与えノーベル平和賞を受賞した日本被団協のように、核兵器廃絶に向けて日本こそ世界をリードするよう求めます。

灯油の異常な高騰は3年以上に及び、コメ不足から米価も上がっています。燃料も食料も他国に依存しすぎる状態が、消費者や生産者を苦しめています。原発に頼らない再生エネルギーの普及と、食料・食の安全を守るためにも食料自給率の向上を求め、事業や運動での取り組みをすすめてまいります。

今年には国際協同組合年にあたり、私たちにとって特別な年です。県内の協同組合の連携を強め、SDGsの達成と岩手のくらしに貢献できるように努めてまいります。

皆様のますますのご多幸をご祈念し、引き続きのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

《お知らせ》 ~どなたでも参加できます~

参加無料

岩手県生協連協同組合公開講座 「気候変動」

2月10日(月) 10時半~12時半
盛岡市アイーナ会議室804B
(盛岡駅西通1-7-1)

「気候変動影響と適応策」について

講師・藤田 知弘 氏



(国立環境研究所
気候変動適応センター
気候変動適応
戦略研究室主任
研究員。盛岡市出身)

参加締切: 2月3日(月)

※参加希望の方は必ず事前にお申し込み下さい。

メールで申込はこちらから↓



講師は来盛して講演。
YouTube ライブ配信も実施。
<https://www.youtube.com/live/szWJCaAFLkg>



さようなら原発岩手県集会

3月16日(日) 10時~12時
岩手教育会館多目的ホール
※集会後アピール行進予定。
講師・青木 美希 氏



(ジャーナリスト、作家)
参加締切: 3月10日(月)
◇参加希望の方は左記まで。

映画「戦雲」盛岡上映会

(上映時間132分)
3月29日(土) 10時半~14時
プラザおでつておでつてホール
前売 一般1,000円
(当日1,200円。学生無料)

◇プレイガイド
イド..
わて生協
店舗(盛岡・滝沢)



お申し込み・お問い合わせ先 岩手県生活協同組合連合会

TEL: 019-684-2225 FAX: 019-684-2227

特集

生協学習交流会開催

「生協のつくる責任、つかう責任」

「サステナビリティと暮らしの見直し」

昨年11月13日に、6生協40人の組合員や職員が参加して県生協連主催「生協学習交流会」を開催。講師の新良貴さんは、地球の現状や未来の資源を私たちが消費してしまっている事、生協の環境・サステナビリティ政策や、私たちが今からできるアクションについて講演しました。



日生協組織推進本部 社会・地域活動推進部サステナビリティ推進グループマネージャー

新良貴 泰夫 さん

講演内容ダイジェスト

「生協のつくる責任、つかう責任」という言葉があります。皆さんご存知のとおり「つくる責任、つかう責任」というワード自体はSDGs 17個のうち12番目の目標です。色々目標があるが、生活者の視点からは一番身近な目標ではないかと思えます。

具体的に行う上でkeyになるのが、まさに「エンカル消費」それを通じた「くらしの見直し」と思っていますので、皆様できるだけ身近な視点で「自分なら何が出来るか」「自分ならこう思う」を意識しながら聞いていただきたいです。

地球で岩手で今起っていること

地球温暖化、森林破壊、プラスチックごみ、問題は色々ある。「未来47景」というウェブサイトに、2100年頃に岩手県がどうなっていくか予測が出てきます。

パリ協定は、2℃未満に温度上昇を抑えるよう温室効果ガス排出を減らしていく目標。出来れば1.5℃だが、

まずは必ず2℃に抑えようと岩手県でも2℃未満の目標が達成された場合に、どう変わるかをサイトに出されています。

これを見ると、年平均気温1.4℃上昇、真夏日が9日、熱帯夜が2日増加する等、2℃に抑えても温度は増加します。そもそも大気中に出してしまったCO₂は減らせないで、温暖化は止まりません。海は2℃未満に抑えれば、海水温の面では大きな変化はないと言われている。

一方でこのまま何もなかった場合、最悪パターンで平均気温が4.6℃、真夏日の増加もとても話にならず熱帯夜も増えるし、何より海水温も4.9℃上昇し、明らかに海の幸の採れる量や質に影響が及びます。どちらの未来を選ぶか。やはり2℃目標が達成された場合を目指さなければならぬ、と理解いただければと思う。

食の部分でいうと、農産物の品質低下。これまでは寒暖差のある気候で作られた農作物が、一日の寒暖差がなくなることによって名産だったものが違う県の名産になってしまう等色々なことが起

りえる。生産農家への影響も大きく、これは水産物も同様でマグロ、イカ、カニ等が減少する可能性も。ホタテの養殖も困難になると言われています。

将来の資源を先取りしている私たち

私たちはどれだけ地球環境を踏みつけているか。「エコロジカルフットプリント」という概念がある。私たちは食べる上で農作物を使うが、一定の森林資源は使わざるを得ないし、魚も捕らざるを得ない。ゴミも出さざるを得ないし、生活している以上CO₂も出す。致し方ないが、それは何らかの形で地球環境に負荷、負の影響を与えている、その負の影響の与える度合を国際的に比較するような指標です。

温室効果ガスの排出、森林伐採による資源利用、行き過ぎた量の魚の捕獲等人間活動が地球環境を踏みつけた足跡（フットプリント）で見た場合、全国で一番踏みつけているのは東京都。岩手県は29位でそんなに多くはないが、それなりのインパクトを地球に与えていると理解いただきたい。

資源利用等で出す廃棄物量が適切でないが、どう考えても今は適切ではない。世界中の人々が私たちと同じ生活レベルだったら地球は何個分必要かを考えると、アメリカ生活を全世界の人がやったら、地球が5個なければ無理。日本の生活は2.8個、インドは0.7個。大事なことは0点台の国があること。本来使うべき資源が使われていないことを示している訳で、「全世界の人々が地球1個分の暮らしをすれば良い」ということです。

今、5個とか2個とか使っているのはどういふことかというところ、将来の人々が使う資源を私たちが先取りしてしまっているだけ。本来残しておくべき資源を使ってしまうので、困るのは後の世代。私たちの子、孫、ひ孫の世代かもしれない。何としても地球1個で収まるように目指すのが世界的な合意、そこを目指しているのがSDGs。簡単にいうと、「地球1個分の世界を目指して頑張ろう」です。

Q…2018年の日本国内の熱中症死

者数は何人？

A…1,500人。熱中症認定された方のみで、特に65歳以上の人が8割を占める。夏の暑さの中で我慢は危険。上手にエアコンを使いこなし、無理なく快適に地球温暖化防止ライフを過ごしていきたい。「温暖化対策とSDGsに貢献する」というのは、決してエアコン我慢の省エネではない。SDGsの目標には「地球環境を保全・守ろう」というのもあれば、「健康」「人権を守ろう」というものもあります。



生協の2030環境・サステナビリティ政策

日本生協連では「コープSDGs行動宣言」をまとめ、7つの大事にした宣言を作った。宣言を出しただけで

はダメで、しっかりと実行計画と目標を作らなければいけない。「持続可能な生産と消費のために商品とくらしのあり方を見直す」「つくる責任、つかう責任を大事にする

」事を強く入れています。

SDGsを進める時に、「正と負の両面アプローチが大事」と言われています。SDGsと聞くと、自分はこのだけ頑張っている、こういう良い影響を与えている、と良い所だけ着目しがち。大事なのは、踏みつけている量・負の部分減らさなければいけないことなので、正と負の両面で行くことが必要です。

生協事業と地球資源の関係を考えてみる

ご自身の生協に置き換えて考えてもらうと、例えば現在調達・販売している商品も元は農畜産物を結構使っているし、水も使い色々な工場も動かして生産している。家庭用品や衣料品を売っている場合は木材や繊維も原料として使っているし、化石燃料も使っている。店舗を建てる場合、土地も使う、カタログ作る時は紙も使う。店舗商品にはプラスチック、宅配は軽油やガソリンも使う。様々な事業所で廃棄物やプラスチック、惣菜をつくる時もゴミを出している。

私たちのくらし方が何かしら社会に押しインパクトを与えているので、それを数値化して見ようというのも大事な取り組み。着目して欲しいのが、プラスチック量が地域購買生協全体で1万6千トンで、日本の小売業全体に占める割合が7・8%。生協全体で見ると凄量のプラスチックを使い、生協だけでなく小売業全体で結構使っていること。

更に大きいのが紙。日本全体の新聞

量はそれなりの量だが、それに比較して、生協商品カタログ紙の量は毎日配る朝夕刊全体量の15%という凄量を使っている。食品廃棄物等も含め、生協が色々出していることが分かる。

一方で生協事業による人権リスクですが、生協が様々な物をつくっていく過程で人権問題が一片も無かったか、もしかしたら何処かで子どもが働かされている事例があったのではないか？もしかしたら労働違反があったかもしない。それは必ずありゼロには出来ない。他の企業は調べ始めているが、生協はまだ調べきれていない。ここは意識していなければいけない大事なポイントです。

生協が環境と社会に与える影響が小さくないことをご理解いただきたい。宣言で終わるのではなく行動計画を作らう、やるべきアクションプランを明らかにしよう、ということ。日本生協連は、サステナビリティ政策を3年前に10項目作りしました。まだ政策や目標を作られていない生協さんは、行動計画を作成されれば良いと思います。

つくる・つかう責任とエシカル消費

「つくる責任 つかう責任」には11個の実行計画があり、その一例として、食品廃棄物を減らそう、サプライチェーンにおける食料損失、私たちの食べ残し減少、農作物を作る時に出るロスも減らそうということがあります。廃棄物そのものを減らすとともに再生利用して、リサイクルしていくことです。また、自然と調和したライフ

スタイルに関する正にエシカル消費とか、くらし方・消費の仕方を学んでいく、ということも大事です。

エシカル消費とは何か。日本生協連が作った冊子では、「自分の都合だけでなく、他の人々や社会、環境など地球全体にどのように関わろう影響するかを考えて商品やサービスを選ぶ消費」という言い方をしています。

これまでは「美味しさ・可愛さ・安さ・便利さ」等を意識して商品を選んでいたが、更に選ぶ時の視点を追加して、地域のことを考えたり、これを買うとどこかの地域の保全、地球環境の保全に繋がるか、何処かの人々が笑顔になれるか等そういうものを考えながら消費していく、となります。

特に生協の良いところは。正に「つくる責任 つかう責任が好循環を生む」ことで、組合員がエシカルな商品を購入すると生協側がその商品をさらに取り揃え、組合員もエシカルという言葉を知ったら他の人にも情報をシェアして、どんどん広めてくれる。そうして普及していくのが生協の良いところだと思えます。

私たち一人ひとりができること

「知って」「学んで」「アクション」の3つのアクションが良いと思う。「何をやるか」：私たちのくらしが如何に環境負荷をもたらしているか、そのインパクトを数値で知ること。「学ぶ」：興味を持ったら勉強する。何が原因でこうなっているか？何をすればいいのか。「アクション」：身近なと

ころからで良いと思います。

岩手県民1人当たりの温室効果ガス排出量は約7トンで、全国平均より若干少ないですが、日本が目指すのは3トン以下にするので、半分以下にしなければいけない。まだまだくらし方を変えて行かなければいけない、ということですよ。

知った上で何を変えるか。効果のある対策を上から並べると、1番効果があるのが住宅の窓の断熱リフォーム、次が再生可能エネルギー使用、自家用車利用を減らす若しくは電気自動車利用、ペジタリアンになること。畜産業の温室効果ガス排出が多く、特に飼料作りや牛のゲップからも出るCO₂が多いが、これを言い出すと「食べなければ良いのか」となってしまうので、温室効果ガスの発生を抑える飼料作りや農法とかの開発も今進んでいます。

「学び」ですが、コープサステナブルアクションという名前の我々のサイトなどを使ってもらい、そこに「エシカルとは何?」とか「温暖化って何?」とかの解説を載せています。興味のある方は、そのサイトに「学び」のページもありますので、そちらもご覧ください。

岩手県はZ世代(20〜30歳代)とか、小学生の取り組みが凄く多いので、これらに注目・応援していくのも大事。県の広報等で取り上げているのも特徴的でした。

最後に「アクション」する時の視点ですが、次の3つから考えれば良いと思う。

1. 選ぶ時に意識する。環境・人に優しい商品を選ぶ。電気も出来るだけ再生可能エネルギーを選ぶ。お金の預け先も少額投資先や年金運用先が化石燃料・石炭火力発電に投資等していないか注視する。また、ライフスタイルの選び方、どんな家に住み、家電や通勤手段、食生活をどうする等を選ぶ時も、地球や人に優しいかを意識することが大事。

2. 使うこと・使わないこと。マイボトル、マイバック等使えるものは何度でも使いたい。使い捨てでリサイクル・リユース出来ないものは、使わないようにする。言葉も人を傷つけない差別しない言葉を使うことが、人権的観点からも大事。

3. 自ら出来なくてもシェア・応援するでも良い。寄付付き商品を買う、募金に協力する。その募金が誰かの役に立つなら、エシカルなライフスタイルと言えるし、SNSで「いいね」するだけでも良い。今日私が話した事を発信したり伝えたり、学校等で生徒に伝えたり、組合員が周りの方々とシェアするのも良い。自分なりのサステナブルなアクションを見つけていただく事が大事です。「この現実を変えよう」というのが最後のメッセージです。

(文責:岩手県生協連)

●講演後に小グループで交流

講演を聴いて、感想や質問、自生協や自分のくらしで活かせることを交流しました。

◇参加者からの感想(一部)

- ・自分の都合ではなく、つかう責任・つくる責任を考えて生活しないといけない。
- ・温暖化を実感することが増えている。エシカル消費について初めて学んだが、地産地消や旬のものを選ぶなど、やれることがある事を知った。組合員にも周知おすすめして、利用を広げていきたい。
- ・サステナビリティは、環境と人権をテーマに取り組んでいく事。普段の業務では人権について考えることがなかったが、大切さに気付くことができた。
- ・今の暮らしは、未来の資源を先食いしているという事実。子孫のために何ができるか、考えるきっかけになった。



見逃し配信 <https://youtu.be/zOt0yVgUgJ8>

「市役所生協交流会」を釜石で開催

県内には4つの市役所生協があり、毎年会場持ち回りで交流会を開催。今年度の会場は釜石市で11月9日に開催し、3生協13人が参加しました。

日生協職域生協事務局の井形さんからは、タブレット型POSシステムや無人店舗等新しい販売形態、市当局との関係希薄化や職員減少に伴う供給減等市役所生協に共通している問題について報告。各生協からは取り組み事例等を報告し、今後に向けて交流しました。



なくそう核兵器！消費者の知る・選べる権利を守るうう！

核兵器廃絶、ゲノム編集食品表示を求める取り組み

●核禁条約批准を求める岩手の会 結成3周年集会開催

昨年9月29日、「日本政府に核兵器禁止条約への批准を求める岩手県民の会」は、結成3周年集會をWEB視聴含め90人で開催しました。

ピースボート国際コーディネーターの渡辺里香さんが「核兵器のない世界に向け、私たち市民が果たす役割」というテーマで記念スピーチ。ピースボードのおりづるプロジェクトによるヒバクシャ証言地球一周航海やICAN国際キャンペーンのノーベル賞受賞の経過、核兵器禁止条約の現状（署名94か国・批准73か国）などについてお話しいただきました。

その後、渡辺さんをモデレーターに、高校生平和大使と原水禁世界大会に参加した盛岡医療生協職員の若い世代によるトークセッションを実施。活動を報告し合い、核兵器廃絶への役割等について意見交流しました。

参加者からは、「ピースボートやICANの活動が知れてよかったです。核禁条約成立には、被爆者の



見逃し配信
<https://youtube.com/live/SuZIFGHRMOM>



みなさんを先頭に草の根運動が土台にあることや、私たちの市民運動がけっして無駄ではなかったことも確信できた」「次の世代に語り継ぐことが自分たちの使命だと再認識」「若い世代の核廃絶に向けた声が聞けて良かった。感動したし希望を持った」等の声が出されました。

岩手の会の署名は、5万7千筆を超えています。県内首長へも個人署名を呼びかけ、これまでに達増知事や33市町村中22人の首長が

署名しました。日本被団協のノーベル平和賞受賞を契機に、さらに核兵器廃絶に向けて取り組んでいきます。

●ゲノム編集食品に表示を！ 学習会開催

昨年11月6日、県生協連・県消団連・いわて生協・生活クラブ生協共催で、「消費者の知る権利・選ぶ権利」ゲノム編集食品に表示を求めましょう！と題し、学習会を開催。サテライト会場を含め75人が参加しました。講師の安田節子さん（食政策センター・ビジョン21代表）は、「日本はゲノム編集食品の表示義務がありません。ゲノム編集食品を含む遺伝子



見逃し配信
<https://youtu.be/HaOVrhr1Qg>



操作食品の表示義務を求め、署名活動や議員・首長への要請行動したり、自治体条例で議会から国会・政府機関へ意見を提出させよう」と訴えました。

参加者からは、「遺伝子組み換えとゲノム編集の違いが分かった」「企業利益より、消費者の知りたいを優先していくべき」「企業は消費者にも環境にもいいものを作ってほしい。ぜひ表示を求めて声をあげよう」等、大きな反響がありました。

●ゲノム編集食品の表示を求め

国に意見書を出すよう県に請願
12月2日には、県生協連、県消団連、いわて生協、生活クラブ生協、県学校生協、いわて食・農ネットほか、生産者や事業者8つの団体で、県に請願書を提出しました。全国では、のべ20近い自治体で意見書が出されていますが、岩手からも、表示が必要であると国に意見書を出すよう請願しましたが、12月議会では継続審議に。採択を目指して、2月議会でも働きかける予定です。

遠野市役所生活協同組合

遠野市役所生協は、2坪程度の店舗面積で売店経営を行っています。

東日本大震災で市役所本庁舎が全壊したため、市役所本庁舎機能が市内のショッピングセンターの2階に移転することとなり、これに伴い、市役所生協も同施設に移転となりました。

生協経営は、令和6年6月1日の組合員数は344名です。3年前と比較すれば113名程度の減員となり、組合員が減少する中ですが、売上も何とか1千万円程度を維持することができています。

これまで、市職員という固定客に支えられてきましたが、店舗内の売上だけでなく、これまで以上に、販売機会を拡大する必要が出てきました。

数年前から実施している、地元の産直や事業者からのパンの仕入れ販売や、観光施設の団子など



産直ともちゃんのパン販売も好評です。
2023年度実績 組合員数 336人
事業高 14,703千円

の郷土料理の予約販売などに加え、さらなる販売チャンネルの拡大を図りたいと考えています。

現在、生協理事の皆さんの積極的な参画を得ながら、組合員のニーズに対応した商品のラインナップを拡充するための協議を進めています。

店舗がショッピングセンターの2階にあることから、競合するような大々的なキャンペーンは行いにくい環境にありますが、何とかできることを積極的に行いながら、身の丈で組合員に愛される持続可能な店舗経営を頑張りたいと思います。

岩手県労働者共済生活協同組合

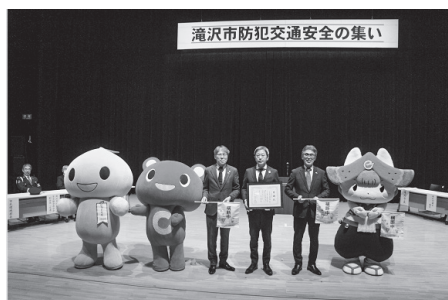
全国労働者共済生活協同組合連合会（こくみん共済coop）は、原点である火災共済事業がスタートして70年の節目をむかえました。戦後復興間もない頃、「誰もが入れる保障があれば、安心して働ける」「みんなが力を合わせれば実現できる」という想いが、1954年に大阪の地で結実し、火災共済事業がスタートしました。

70年の中で私たちは、様々な災害に向き合い、組合員の暮らしと地域社会を守る取り組みを進めてきました。いつでもどこで誰が被害にあうかわからないのが「災害」、だからこそ共済による経済的な備えと同時に予防（防災・減災）が必要で、こくみん共済coop岩手推進本部では、防災・減災の啓発活動として、防災・減災セミナーや、地盤診断サービスなどに取り組んでいます。また、防災・減災運動の担い手づくりとして全職員の

「防災士」資格取得をすすめており、現在23名が取得しています。

また、社会課題解決の取り組みとして展開している「7才の交通安全プロジェクト」において、2024年は滝沢市など11の自治体と小学校37校に5,819本の横断旗を寄贈させていただき、各所で交通安全に活用いただいております。

70年を契機として、あらためて多くの仲間とともに「暮らしを守る取り組み」をすすめてまいります。



昨年12月6日滝沢市での横断旗贈呈式
2022年度実績 組合員数 117,443人
事業高 69,700千円

■福祉灯油請願や、灯油の価格抑制 安定供給を要請

県生協連は長年、灯油の適正価格や安定供給を求める運動とともに、経済的に厳しい世帯への灯油代支援「福祉灯油」実施を求め、県に各市町村への灯油代補助を出すよう請願を続けてきました。

その結果、県は2011年の東日本大震災以降、沿岸12市町村対象に10年間にわたり補助を実施、2021年からは全市町村が対象に。原油価格上昇と物価高が長引く中で、24年度も全市町村への福祉灯油を求め、昨年10月3日に県生協連、いわて生協、県学校生協、県消団連の4団体で県議会請願を行い、採択されました。昨年度同水準の約3億9千万円、11万2千世帯を対象に支援が行われます。

また、昨年10月28日には、東北6県の生協連で東北経済産業局に要請を実施。灯油の価格抑制及び物価高対策を求めました。

■くらしの様々な問題を考え合った 「岩手県消費者大会」

昨年10月29日に、県消団連を事務局に県生協連ほか16団体で実行委員会を形成し、岩手県消費者大会を開催、WEB視聴も含め265人が参加しました。

午前中は5つの分科会（社会保障、食、消費者問題、震災・防災、人権・ジェンダー平等）を実施。午後の全体会は和光大学名誉教授でジャーナリストの竹信三恵子さんが講演し、「ジェンダーと社会保障」と題して生きやすい社会にしていくためにどうしていけばいいのか、お話しいただきました。



見逃し配信
<https://www.youtube.com/watch?v=wZvlLS428aY>



参加者からは、「ただ働きで福祉を女性に担わせ、本来必要な社会保障に予算をかけず軍拡ばかり予算が積み込まれていることに怒りを感じた」「ジェンダー差別が社会保障の弱体化に大きく影響していることがよくわかった。日本は女性の人権を大切にしない仕組みに

なっていることをあらためて感じた」などの感想が出されました。

■STOP!女川原発再稼働 緊急アクションを実施

県生協連・県消団連など45団体で構成する「さようなら原発岩手県集会実行委員会」は、昨年9月11日に緊急アクションを120人で開催。宮城県にある女川原発2号機は老朽原発で危険リスクが高く、立地周辺にも活断層があるといわれており、再稼働を止めようと市民にアピールしました。



リリーススピーチやアピール読み上げ後、アピール行進を実施。

また、翌々日9月13日には東北電力岩手支店を訪れ、「再稼働中止を求める要請行動」も行いました。女川原発は再稼働されてしまい

ましたが、ひとたび深刻な事故が起これば甚大な被害を及ぼす原発をなくしていこうと、今後も反対運動を続けていきます。



原発再稼働中止と再エネ優先の事業転換を求め、東北電力に要請。

■学校給食費無償化を求め 県と盛岡市に請願し採択

盛岡医療生協が事務局となつてすすめている、学校給食費無償化を求める岩手の会では、街頭宣伝や署名に取り組んでいます。

昨年9月に県には市町村への財政補助、盛岡市には無償化と中学校の完全給食実施を求めて請願を行い、どちらも採択されました。

岩手の会全体の署名数は、現在県あてが3万7千筆、盛岡市あてが6千筆となっています。今後も、実施されるまで宣伝や署名に継続して取り組んでいきます。

